

愛媛県新居浜別子倫理法人会 令和3年 1月 13日 モーニングセミナー講話

倫理と繋がる 明治人の気骨なる精神性

(愛媛県/日本の英雄 秋山兄弟 弟 秋山真之)が遭難当時関わっています。

2015.11.26 産経新聞より (海難 1890 映画公開 2015年 12月 5日)

和歌山県倫理法人会 副会長 富田博文

NPO法人エルトゥールルが世界を救う
理事長 富田博文

ホームページ <http://ertugrul.or.jp/>

遭難トルコ人を住民総出で救出 130年前の日本人が示した「人道」の精神…映画になった日
ト友好の“原点” 「日本とトルコの距離は遠いが、心は近い。トルコ人のほとんどは日本を尊敬
しており、特別な愛情を持っている」(ニハット・ウスタ・トルコ・オリンピック委員会副会長)

トルコではエ号遭難事故は教科書に掲載されるほど有名な話で、政府や各団体の関係者からは
映画の公開を機に両国の関係がより深まることを期待する声が相次いだ。

両国結ぶ“絆”の原点

エルトゥールル号遭難事故とはどのようなものだったのか。



(エルドアン大統領と安倍首相とのトルコでの会談により 東映が名乗りをあげる)

明治20年(1887年)明治天皇の甥にあたる小松宮彰仁親王殿下、同妃殿下がイスタンブールを
訪問した際に、トルコ皇帝アブデュルハミト2世は明治天皇より勲章を賜り、それに対して日本
に答礼使節を派遣することを命じ、この使節団に軍艦エルトゥールル号が選ばれた。艦には特別
に選抜された56人の将校を含め609名が乗員していた。その年、海軍士官学校を卒業した若い少
尉たちのほとんどがエルトゥールル号に配置され、遠洋航海で経験を積むことが目的とされた。
この軍艦はアブデュルハミト2世より明治天皇への勲章や贈物を携えていた。1889年7月にイス
タンブールを出航し、11ヶ月後の1890年6月7日横浜港に到着した。

(オスマン海軍少将一行は、明治天皇に謁見し、アブドゥルハミト2世皇帝より託されたトルコ最高勲章および種々の贈り物を明治天皇に捧呈(ほうてい)し、併せて両国の修好という皇帝の意を天皇に伝えました。これに対し、明治天皇は、使節に勲章を授け、饗宴を賜いました。使節団一行は東京に3か月滞在、その間官民を挙げての歓迎を受け、明治23年9月15日、横浜港を出港、帰国の途につきました。日本国当局は、9月が台風の高潮の季節であり、またエルトゥールル号が建造後26年を経た木造船であることから、出発前に修理を行うよう勧めましたが、オスマン少将は帰途が遅れないようにと、予定通り同日出港しました。)

(フリゲート艦エルトゥールル号 総トン数約2300トン、全長約76メートル、速力10ノットの木造船で、当時としては旧型だったという。)

翌16日に串本町の榎野崎沖で台風に遭遇し、波浪と強風で舵が利かなくなって岩礁に衝突、爆発を伴って沈没した。

救出劇が絆の原点に

衝突したのは「船甲羅(ふなごうら)」と呼ばれる岩礁群。紀伊半島の南端に位置する串本町の大島の中でも、昔から海の難所として恐れられていた場所だった。この事故により乗組員587人が亡くなりましたが、地元住民らが総出で不眠不休の救出活動を展開した結果、69人が救助された。住民らは非常食用の米などを持ち出して炊き出しを行い、自分の服を脱いで救助者に着せて温めたという。また自身の身体で暖めました。「衣服といっても(大きいトルコ人と日本人では)体格がかなり異なり、袖の長さが合わないなど滑稽な状況だったようです。また、茶碗(ちゃわん)でご飯を出しても箸が使えないため、おにぎりにしたら食べてもらえたという話もあります」。

一命をとりとめた乗組員らは、同年10月5日に明治天皇の命により、軍艦の「比叡」と「金剛」に分乗し、翌年1月2日にトルコ・イスタンブールに帰還した。2隻の軍艦はトルコ国民に感謝されながら迎えられたという。

1890年10月～1891年5月には、和歌山県串本沖に座礁したトルコ軍艦エルトゥールル号の生存者を送還する為、僚艦「金剛(初代)」と共に遠洋航海し、コンスタンチノーブルを訪問している。

その時、秋山真之はその護衛艦 比叡に練習生として乗船



日本の主力艦隊 金剛



巡洋戦艦 比叡

串本町では、遭難の翌年に慰霊碑が建立。現在も、5年ごとに両国の要人らが参加して慰霊の大祭が催されるなど、友情の絆は続いている。



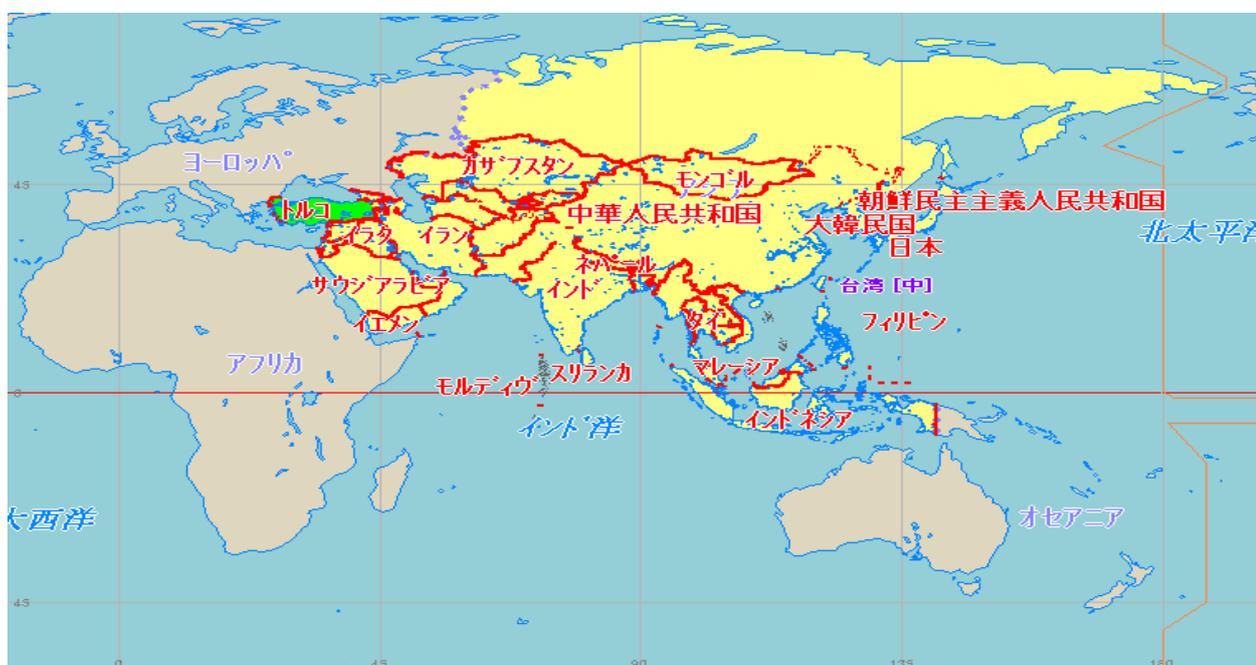
和歌山県串本町大島 トルコ記念館



トルコ軍艦遭難慰霊碑

エ号の“恩返し”

エ号の救出劇は、95年を経てもう一つの感動をもたらした。



イラン・イラク戦争中の昭和60(1985)年3月17日、イラクは突然、「48時間後に民間機を問わずイラン上空を飛ぶ航空機を撃墜する」と宣言。各国は在留の自国民の救援機を出したが、日本は救出せず邦人が取り残された。

ここで、トルコ政府は日本人救出のため、イランのテヘラン空港にトルコ航空の救援機を派遣。時間ぎりぎりに到着した救援機が自国民に優先して在留邦人215人を救出した。

(1985年(昭和60年)のイラン・イラク戦争 当時、イラクのサダム・フセインは、イラン上空の航空機に対する期限を定めた無差別攻撃宣言を行なった。各国は期限までにイラン在住の国民をメヘラーバード国際空港から軍用機や旅客機で救出したものの、日本は自衛隊の海外派遣不可の原則のために、航空自衛隊機による救援ができなかったうえ、日本航空はイランとイラクによる航行安全の保証がされない限り、テヘランのメヘラーバード国際空港行きへの臨時便は出さないと。)

「エルトゥールル号の事故での日本人の献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていない。それで、テヘランで困っている日本人を助けようとトルコ航空機が飛んだ」。救出劇の後、元駐日トルコ大使はこう述べている。トルコ側の時を超えた“恩返し”だった。

(トルコ機は、トルコがイラン近隣に位置することから、陸路での脱出もできる自国民に優先して日本人の救出を計った。この救援機2機に乗れなかったトルコ人約500名は、陸路自動車でイランを脱出した。)



感動、涙の試写会

「海難1890」では、工号遭難事故で懸命の救助を行った紀伊大島の住民と、イラン・イラク戦争で救援機を出したトルコ政府の双方にスポットを当て、言葉や文化の違いを超えた人間愛が描かれている。地元関係者らに向けて10月下旬に行われた試写会では、2時間12分の上映中、感動的なシーンにすすり泣く声がたびたび聞かれた。上映後、仁坂知事も「涙が流れて止まらなかった。すべての人に対する『真心』がこの映画の魅力。テヘランでトルコの人に示してもらった友情を、今度はわれわれが忘れてはならない」。串本町の田嶋勝正町長も「この出来事は語り継ぐべき史実。できる限り多くの人に見てもらいたい」と話した。

作品は国民意識や文化、風習を超えた「人道」が大きなテーマ。映画の公開は、125年前の日本人が実践した精神を再確認する機会としても注目される。

海難1890 和歌山での優先公開に寄せて（仁坂和歌山県知事）



エルトゥールル号事件を描いた「海難1890」が12月5日について封切られます。田嶋串本町長と学友で世界的に有名な田中光敏監督の発意から生まれたこの映画がついに実現したのです。5年前にこの話を聞いた私も早速協力して、資金集めなどに皆で悪戦苦闘しました。その間はリーマン・ショックなどがあり、企業の財務が急速に悪くなって、大変難行でしたが、安倍総理とトルコのエルドアン首相(現大統領)が意気投合し、この映画を応援しようと決めてくださってから、急に話が進み始めました。私は資金集めに走り回りましたし、東映が配給先として責任を持ってくれるようになり、和歌山を中心にNPO法人エルトゥールルが世界を救う他ができて、皆が応援して、ようやく感動的な大作ができました。

1890年オスマン・トルコ帝国の希望の星であったエルトゥールル号が、日本との友好親善で大変な功績を上げた後、串本大島の榎野崎沖で荒天の中、座礁沈没するのですが、その時、榎野をはじめ近くの漁村の人々が、寝食を忘

れ、生存者の救出と介抱を行い、貧しい暮らしの中でもありったけの食糧などを提供して、トルコの人々を救いました。一方トルコは、これを多として、このことを 125 年間教科書に書き続けて、忘れないでいてくれたのです。その記憶の中で、今度はその 95 年後の 1985 年、テヘラン空港で取り残された日本人のために航空機を飛ばしてくれ、自国民よりも優先して救出してくれたのはトルコでした。この時空を越えた友情と思いやりがこの映画のテーマです。私は 125 年前のわが和歌山県民がかくも立派な心意気を身をもって示してくれたことを心から誇りに思いますが、同時に 30 年前にトルコから示されたあの英雄的な友情を決して忘れてはならないと思います。

県民の皆さん、是非この映画を見ましょう。見て、感動して、泣いて、そして明日への勇気と希望を心に湧かせましょう。

日露戦争(工号遭難から 14 年後)

1904 年(明治 37 年)2 月 8 日から 1905 年(明治 38 年)9 月 5 日にかけて大日本帝国とロシア帝国との間で行われた戦争である。朝鮮半島と満州の権益をめぐる争いが原因となって引き起こされた。



兄 秋山好古



弟 秋山真之

充分に訓練を重ねていた連合艦隊は、多数の命中弾でバルチック艦隊を次々に撃破し、開戦後約 3 時間で多くのロシア艦船に被害を与える。1905 年 5 月 27 日～28 日に行われた日本海海戦に勝利した。

ロシア側の損害は撃沈が戦艦 6 隻、他 10 隻の合計 16 隻。自沈 5 隻、拿捕 6 隻。

なんとか 6 隻が中立国へ逃亡し武装解除し、ウラジオストクへ入港できたのはたったの駆逐艦 2 隻他 1 隻の計 3 隻みであった。戦死は 4830 名、捕虜 6106 名、ロジェストヴェンスキー提督とネボガトフ提督も捕虜となった。対して、日本側の沈没は水雷艇 3 隻、大破は駆逐艦 1 隻のみ、中破 0 隻、戦死 117 名。日本海海戦(世界的には対馬海戦と言う)で日本の連合艦隊は奇跡の大勝利を挙げた。

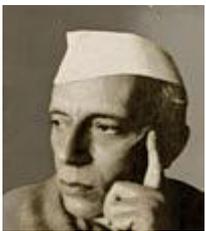
日本の同盟国イギリスや仲介国アメリカすら、このバルチック艦隊殲滅には驚き、タイムズ紙など有力紙が確認のため記事掲載を遅滞させるなど、世界中が日本の勝利を当初疑ったほどであった。

ロシア艦隊は戦力の大半を失い壊滅したのに対して、日本側の損失は軽微で、海戦史上まれな一方的勝利となり、日露戦争の日本勝利に大きく貢献し、東郷平八郎は「智謀如湧」(ちぼうわくがごとし)と第1艦隊参謀・秋山真之の作戦立案能力を評価した。さらにこの勝利はとくにトルコ人に改めて日本人に感動を与えた。

鎖国をやめて近代国家として歩き始めたばかりの小国日本が、国力も軍事力もはるかに強大な大国ロシアと戦争して勝つとは、誰も思っていませんでした。この戦いに負ければ日本が滅んでしまうと考え、イギリスと同盟を結び、国民一人一人が力を合わせて必死に戦ったから、ぎりぎりの勝利を手にする事ができたのです。そして、この勝利により、開国以来続いていた貿易関税などの不平等な取り決めを改め、国際的な地位を高めることができました。また、日本の日露戦争勝利は、白人が支配していた世界に大きな影響を与えました。列強の植民地になり、富を奪われ圧制に苦しんでいたアジアやアフリカの人々は、「日本が大国に勝ったんだから、自分達もがんばれば植民地支配からのがれ、独立できる」という強い希望を持ち、独立運動が高まりました。

当時ロシアに支配されていたフィンランドでは「東郷ビール」がつくられ、トルコでは「トーゴー」や「ノギ」という男の子の名前がたくさんつけられました

ネルー(初代インド首相)が子供に話したことは



「日本は勝ち、大国の列に加わる望みを遂げた。アジアの一国である日本の勝利は、アジア全ての国々に大きな影響をあたえた。私は少年時代(当時ネルーは 17 歳)どんなにそれに感激したかをおまえに良く話したことがあったものだ。たくさんのアジアの少年、少女、そして大人が同じ感激を経験した。ヨーロッパの一大強国は敗れた。だとすれば、アジアは、昔、たびたびそういうことがあったように、今でもヨーロッパを打ち破ることもできるはずだ。」

孫文(中国民族革命運動の指導者)のことは



「これはアジア人の欧州人に対する最初の勝利であった。この日本の勝利は全アジアに影響をおよぼし、アジアの民族はきわめて大きな希望を抱くにいった」